

第9回「私と新聞」親子作文コンクール

入賞作品紹介

10

小学生の部親子賞 入選

読む 知る 学ぶ

E! 新聞

家族をつなぐ新聞

会津若松市 永井 優衣さん
一箕小6年

私の父は、毎朝会社へ行く前にコーヒーを飲みながら新聞を読む。そして母は、家族が外出した後に読む。私は休日の朝に、ゆっくりと読む。私は新聞を広げ、興味がある記事を優先に読み、わからない所は両親に聞く。父には父の得意な分野、母には母の得意な分野があり、私が質問すると大体のことは答えてくれるので、毎回すごいなあと思う。読み終わると、記事の内容について話し合ったり、そこからどんな

休日は、ゆっくり新聞を読みたくなる。なぜなら、平日にはできないぜいたくな時間だからだ。そして、ゆったりした時間の中で、家族と話し合う時間が、私はとても大好きだ。

新聞は、私と家族をつなぐものであり、私と家族にとってせいたく時間を与える大切なものなのだ。

新聞に「感謝」!!

新聞と会話の大切さ

父 永井 邦雄さん

最近の子供は、昔と比べて新聞を読まなくなった。私もそう感じている。情

報化社会の現代では、新聞を読まなくても、スマホ等の情報機器で簡単に情報を得ることができ、テレビの情報番組やニュース等で自然に情報が入ってくる。便利になってきていることは事実だが、新聞の活字で情報を得ることも大切なことではないかと思う。

私の母は、田舎で新聞配達を長年やっていたことがあり、私も高校生の時の夏休みの期間、実家に帰り新聞配達を手伝っていたことがある。地方紙や全国紙などの記事を見て読んで、母との何気ない会話をしていたことを思い出す。その会話により自然と母とのコミュニケーションが取れるように思う。

その経験を生かし、私は娘とのコミュニケーションを図るべく、朝新聞を読み、その記事の中で、娘と共有できる記事を基に会社から帰宅後、娘と話し合いをする時間を設けている。一日十五分程度の時間であるが私と娘にとって貴重な時間である。

娘がこれから、中学生、高校生へと育っていく上で、家族との会話などがますます減っていくと考える。だからこそ、新聞の記事による共通の話題での会話の時間が重要になってくる。今後も、私がかつどんなに忙しい時でも新聞を読み、娘と話す時間を大切にし、娘の成長を見ていきたい。